

※クリックすると記事のページを開きます。

①受入生のボランティア体験：小金井市立東小学校（2017 年 6 月）	2
②受入生のボランティア体験：府中市立若松小学校（2017 年 10 月）	3
③ボランティア体験報告：もちつき大会（2017 年 12 月）	5
④第 1 回ラオス語ディベート大会実施報告（2018 年 1 月）	9
⑤在日ラオス人民民主共和国大使館表敬訪問（2018 年 1 月 23 日）	10
⑥本学理事・事務局長ラオス国立大学訪問（2018 年 3 月）	13
⑤TUFS グローバルコミュニティ会合開催（2018 年 3 月）：ピエンチャンで TUFS アソシエイツらと会合	15
⑥ボランティア体験報告：小金井市国際交流フットサル大会（2018 年 3 月）	16
⑦外務省よりラオス楽器（ケーン）の寄贈（2018 年 5 月）	18
⑧ラオスダム決壊義援金贈呈報告（2018 年 8 月）	19
⑨ボランティア体験報告：小金井市立東小学校 ミニ運動会（2018 年 11 月 20 日）	20
⑩ボランティア体験報告：もちつき大会（2018 年 12 月 8 日）	21
⑪ボランティア体験報告：小金井市立東小学校 交流授業（2019 年 1 月 18 日）	23
⑫ボランティア体験報告：小金井市青少年健全育成東部地区委員会 意見交換と親睦の会（2019 年 1 月 19 日）	24
⑬ボランティア体験報告：中高生タイム 留学生とたこ焼きパーティー（2019 年 1 月 30 日）	25
⑭小学校出張授業報告書（2019 年 2 月 16 日）：東金町小学校の訪問	26
⑮ボランティア体験報告（2019 年 3 月 7 日）	28
⑯第 2 回ラオス語ディベート大会実施報告	30
⑰ボランティア体験報告：第 47 回子ども週間行事東部地区子ども縁日（2019 年 4 月 20 日）	32
⑱ボランティア体験報告：放課後こども教室（2019 年 5 月 16 日）	35
⑲高尾山ハイキング（2019 年 6 月 15 日）	37
⑳ボランティア体験報告：小金井市立東小学校 交流授業（2019 年 7 月）	38
㉑ラオス国立大学学長の東京外国語大学訪問（2019 年 7 月 19 日～23 日）	39
㉒ボランティア体験報告：東児童館 ハロウィンパーティー（2019 年 10 月）	42
㉓第 3 回ラオス語スピーチ大会実施報告	45
㉔JENESYS2019 ラオス派遣プログラム活動報告	46

①受入生のボランティア体験：小金井市立東小学校（2017年6月）

◆報告

* 交換留学生としてラオス国立大学から本学に留学していたサーイさんが、小学校でのボランティアを体験しました。

ボランティア活動者； サーイ

（ラオス・2016.10-2017.7.ISEP 交換留学生）

日時； 2017年6月30日

場所； 小金井市立東小学校

参加活動名； 国際交流会

活動テーマ； 外国人留学生との交流、交流を通して外国の生活や文化を知る

参加者； 東小学校 4年在校生約100人

市内及び近隣在住の留学生 7か国15人

活動内容； 各国語での伝言ゲーム、クラスごとのばくだんゲーム、小グループでのお国紹介、サインカード作成など

〈サーイさんの感想〉

こんにちは。私が行なったあの日の感想をラオスからお送りします。

私は生徒たちにラオスの国について紹介し、ラオスを知ってもらえることができ、とてもうれしかったです。

皆、ラオスについてそれまで知らなかったようで、ラオスについての質問をたくさんしてくれました。また、生徒たちといろいろなゲームができて、とても楽しかったです。どうもありがとうございました。



②受入生のボランティア体験：府中市立若松小学校（2017 年 10 月）

◆「府中市立若松小学校を訪問して」

ルアンスワンナウォン・アーモンラット（ヌー） 記



（小学校へ行く道で。手前右が筆者）

学校では大きな歓迎会を行なってくれて、子供たちと先生方のあたたかい気持ちを感じました。その後、いろいろなアトラクションショーがありました。例えば、和太鼓の演奏や琴の演奏、ダンスなどです。それを見ていて、子供たちの普段の努力を感じました。とても感動しました。今までいろいろな学校へ行ってきましたが、今回が一番楽しかったです。一番驚いたことは、アトラクションが終わった

後、お互いに協力し、すぐに楽器や道具を片付けたことです。本当に素早く動いていて、一瞬でその場がきれいにもとどおりになりました。これは自分の国ではなかなか見られないことなので、とても素晴らしい事だと思いました。

次に、私がラオスの紹介をしました。私はラオスの地理、文字、観光地、お祭りや食べ物について写真を見せて説明しました。最初から最後まで、みんな一生懸命聞いてくれました。特に、ラオスでは気温が 37 度くらいになる日が多いと言うと、子供たちは「暑い！」と、とても驚いていました。私から子供たちに質問した時も明るく答えてくれました。

2017 年 10 月 31 日、私は府中市若松小学校の交流会に参加しました。私の他にも留学生が 3 名いて、合計 4 名で行きました。当日は、子供たちがバス停まで迎えに来てくれました。皆、初めて会ったにもかかわらず積極的で、学校まで歩いていく時もずっと話しかけてくれました。



（歓迎会の様子）



(ラオス紹介の様子)

とても興味深かったようで、紹介し終わった後、手を挙げて質問してくれた子も多かったです。例えば、「ラオスで人気があるスポーツは何ですか」、「「好き」ってラオス語ではどう言いますか」ということなどを聞いてくれました。

今回の交流会で得たのは子供たちとの楽しい思い出です。みんな明るく、優しくしてくれました。自分の小学校の頃はこのような交流会がなかったことを思い出しました。今回の交流会は、自分の幼い頃には無かったものを満たせたような気がしました。

若松小学校の交流会に参加させていただき、どうもありがとうございました。

③ボランティア体験報告：もちつき大会（2017 年 12 月）

ボランティア報告

【もちつき大会 ボランティア活動の感想】

2017年12月9日（土）、小金井市東児童館にて、小金井市青少年健全育成東部地区委員会による「もちつき大会」が行われました。

本学から、ミャンマー人留学生3人（女子3名）とラオス人留学生3人（男子2名、女子1名）、日本人学生男女2名がボランティアとして参加しました。

当日は朝10時45分より開始。寒いながらも良いお天気でした。

まず、関野町餅つき保存会のメンバーによる、伝統的餅つきを見ました。関野町餅つき保存会とは、昭和35年に結成された、伝統的餅つきを伝える地元の会です。はっぴ姿で、6人で餅つき歌を歌いながら一臼を15分ほどでついでいきます。現在は小金井市無形民俗文化財に指定されています（左下写真）。

30分ほどこの伝統的餅つきを見学した後、有志の皆さんが交代でつきました。ラオス人留学生の3人と日本人男子学生も、もちつき担当として、何度もつきました。

一方、ミャンマー人留学生3名と日本人女子学生は、餅を丸める係でした（右下写真）。つきたての熱い餅を小さく丸め、黄な粉や餡、のりをつけ、パックに入れます。「もちつき大会」は、300人を超える人たちで大盛況のうちに終わりました。ミャンマー人学生もラオス人学生もはじめて日本のもちつきを見て、とても感動していました。また、初めて食べたつきたての日本のお餅はとてもおいしかったようです。

ラオス留学生3名の感想文を以下に紹介致します。



関野町餅つき保存会の皆さん



お餅を丸める様子

「餅つき大会」ボランティア

コムア（2017-2018 年度交換留学生）

今回ボランティアをすることを決める前に、私は色々なことを考えた。なぜなら、自分の日本語も上手ではなく、私は今までボランティアをした経験もなかったからである。しかし、餅つきは私たちモン族※ 1 もしているし、日本の餅つきも一回やったことがあったので挑戦してみることにした。

実際に餅つき大会に行ってみると、思っていたより面白く、非常に楽しかった。日本の人たちが皆優しくしてくれた。寒い中、餅つき保存会のお爺さんが歌を歌いながら餅をつくのを見た後、自分もたくさん餅をついた。また、トン汁を飲み、磯部餅、黄な粉餅、あんころ餅もたくさん食べた。どれも美味しかった。本当に良い思い出になった。なかでも一番感動したのは、お爺さんが餅つきに合わせて歌った歌である。



コムアさんのもちつきの様子

今回の餅つき大会に参加して、より日本の文化を知るようになったと思う。昔からモン族の人たちは、毎年お正月の前によく餅つきをしている。このモン族の餅つき文化と日本の餅つき文化を比べると、似ていることが多いと思う。私は餅をついている時に両親の顔を思い出した。今回、初めてボランティアをしたが、面白く、本当に良い経験だった。

※ 1 モン族（Hmong）：中国南部やタイ、ベトナム、ラオスなどの山岳地帯にすむ少数民族の一つ

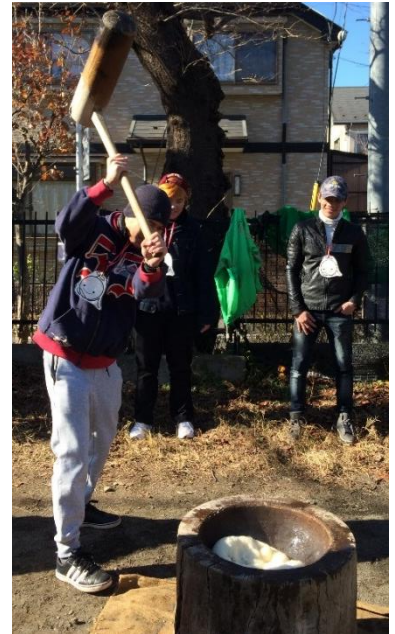


「もちつき大会に参加して」

サンディー (2017-2018 年度交換留学生)

2017 年 12 月 9 日新小金井の小金井東児童館で餅つき大会があった。私も参加した。この時まで、餅つきというものがわからなかった。まず伝統的な餅つきを見た。餅をついているときに餅つきの歌を歌う人がいた。餅つきの歌があるのを知らなかったのが驚いた。その後、実際に餅をつき、餅を作ることができた。そして自分が作った餅を食べた。とても美味しかった。

地域のために餅をつき、みんなが集まる場所になり、いろいろお話しすることができるので、餅つきはとてもいいことと思う。今回、初めての餅つきだったので面白かった。いい経験だった。



「もちつき大会に参加して」

ペーン (2017-2018 年度交換留学生)

私は 2017 年 12 月 9 日小金井市で行われた「もちつき大会」に参加しました。

その日まで、私は「もちつき」を見たことがなかったので、「もちつき」って何だろうと思っていました。でも、渡されたポスターに「餅」という字があったので、「餅」に関する何かをやるんだろうと思いました。

当日は寒かったけれど、良い天気でした。まず、伝統的餅つきというのを見ました。青いはっぴを着たおじさんたちが、餅をつき始めました。するとその後ろで、一人のおじさんが餅つきに合わせて、歌を歌いました。歌の意味は分かりませんでしたが、とても印象深く、一番感動しました。

それから、みんなで交代に餅をつきました。見ていたら私にもできそうに思ったので、おじさんたちの真似をしてやってみたら、杵が重くて大変でした。「ちょっと危ないなあ」と思いました。

休憩時間になって、できたての餅をみんなで食べました。黄な粉と、アンコとのもち餅でした。どれもおいしかったです。私はのり餅が一番気に入りました。

「もちつき」はとても面白かったです。良い経験になりました。



④第 1 回ラオス語ディベート大会実施報告（2018 年 1 月）

◆報告

東京外国語大学ラオス語専攻では、2018 年 1 月 19 日、第 1 回ラオス語ディベート大会を開催しました。教員、学生（ラオス人留学生も含む）あわせて 51 名が参加し、日ごろの学習の成果を発揮しました。

開会式を行った後、ディベート大会を企画、準備したスリカン先生と司会者から実施方法や採点方法についての説明がありました。

各学年から選ばれた 3 名が 1 チームを作り、3 年生チームと 4 年生チームは、「公務員になるのが良いか、民間企業で働くのが良いか」という題でディベートを行いました。各自、持ち時間 5 分で、4 年生は公務員派、3 年生は民間企業派に分かれ、チームリーダーから順に意見を述べました。言いたいことが多すぎて、時間の足りない学生もいました。

1 年生チームと 2 年生チームはくじで当たった質問にラオス語で答える形式で行いました。質問はラオスに関すること、日本に関すること、授業で使った教材から各 1 問出題され、それぞれの質問にどれだけ正確に答えられるかを競いました。どの質問に当たるのか、ドキドキでした。

ディベートの間の休憩時間、審査委員が採点している間に、教員によるラオスの鉄琴と笛の合奏、学生による歌、留学生によるギター演奏もありました。ディベートでは緊張気味だった学生の緊張も溶け、リラックスした雰囲気になりました。授業では見られない先生や学生の特技を知ることができました。

審査の結果、第 1 回のディベートは 4 年生チームが第 1 位、3 年生チームが第 2 位、質問への応答は、2 年生チームが第 1 位、1 年生チームが第 2 位でした。結果は学年順となりましたが、どの学生も事

前にしっかり準備をして大会に臨んでいました。今後のラオス語の学習への大きな糧となったことと思います。各チームのメンバーには、賞状と賞品が授与されました。

18 時半、閉会式が行われ、終了しました。ラオス語専攻でディベート大会を行うのは初の試みでしたが、ほぼ全員の学生が参加し、日ごろの学習の成果を確認するためにも、学年を超えた親睦を図るためにも、とても良い機会となりました。

審査委員を務めて下さった先生方、司会や受付、会場設営を手伝ってくれた学生の皆さん、ありがとうございました。なお、今回の大会実施に関しては、世界展開力強化事業の後援があったことを申し添えます。



⑤在日ラオス人民民主共和国大使館表敬訪問（2018 年 1 月 23 日）

◆報告



（大使・大使館員の方々と東外大一行）
（前列中央がウィロート全権特命大使）

東京外国語大学でラオス語を主専攻語として学んでいる学生とその教員一同が在日ラオス人民民主共和国大使館を表敬訪問しました。

当日はラオス全権特命大使 ウィロート・スーンダーラー大使のラオス国、ラオス文化、ラオス語についての講和やラオス文化に関する手工芸品鑑賞、日本ラオス両国間交流の様子がわかる写真やパネル学習など、盛りだくさんの訪問となりました。

本学からは教員 4 名、学生は 1～4 年の 16 名、そして本学に交換留学中のラオス学生 3 名の総勢 23 名で訪問をさせていただきました。

14 時から 14 時 15 分、文化担当官、スツソムチャイ・ウィライホン氏の説明を受けながらラオス文化に関する伝統的な手工芸品の数々を鑑賞しました。たとえばバーシー式のパークワン、竹製の食事用大盆パーカオ、もち米入れティップカオなどです。また、ラオス風木琴ラナート、クイ笛、キム琴、ケーン、太鼓などのラオス楽器や美しい民族衣装、機織り機などを近くでみることができました。



（スツソムチャイ氏による手工芸品の説明）



（ラカーワン氏による写真解説）

その後、文化担当助官のラカーワン・ケオマニー氏より日本ーラオス両国の交流関係を示す写真やパネルの解説を受けました。近年の両国間の動向や友好的な交流関係がよくわかりました。

次に教員を代表して、東京外国語大学特定外国語主任教員兼客員准教授のスリカン・タムマウォン先生が今回の大使館訪問の目的を述べました。

また本学のラオス語専攻についての説明と共に参加学生の紹介を行いました。



(スリカン先生による大学・学生紹介)

その後、現ラオス全権特命大使 ウィロート・スーンダーラー大使によるラオス国、ラオス文化、ラオス語についての講話がありました。

ウィロート大使は、ラオス国、ラオス文化、ラオス語に関する諸問題を挙げたあと、学生に何を学んだかを問いました。ラオ



(ラオス全権特命大使ウィロート大使による講話)

ス語を学ぶためには語学のほかにラオスの歴史、地理、伝統習慣などを学ぶ必要があることや関心を持つ、好きになる、ということが肝要である、これらは語学学習と密接に繋がっているということをお話してくださいました。

さらに日本ラオス外交関係が今年で 62 年を迎えることに触れて、日本とラオスの友好関係はさまざまな面で今後もますます深まっていくであろうという見解を示されました。そして日本においてもこのラオス大使館で文化交流事業などがあったときにはラオス語を学ぶ本学学生にぜひ参加、協力して友好関係を深めてほしいと言ってくださいました。

お話の最後にはラオスに関するクイズを出されて、正解した学生にラオスグッズをプレゼントしてくださいました。とても楽しい雰囲気が会場を包みました。

最後に大学から学生を代表して 4 年生の千葉綾乃さんが大使をはじめ、館員のみなさんに訪問させていただいたお礼のことばを述べました。大使からラオス語教員学生一同に対して記念品贈呈があり、教員からお礼の挨拶がありました。



(学生代表、千葉さんによる挨拶)

今回の在日ラオス大使館表敬訪問は大変内容の濃い有意義な訪問となりました。

現ラオス全権特命大使 ウィロート・スーンダーラー大使の講話をはじめ、間近にラオスの手工芸品を学ぶ機会を得て、学生は日本とラオス両国の国際的な友好関係やラオス文化、伝統的な手工芸品やラオス語についてますます学びを深めることができました。終始なごやかで楽しいひとときでした。

ここに大使をはじめ、大使館の皆様、関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。最後に今回の訪問は世界展開力強

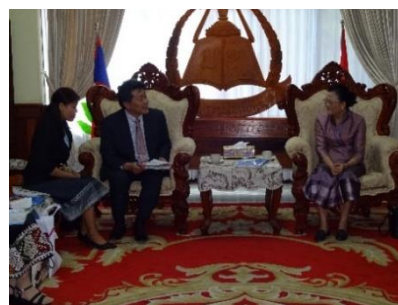
化事業の後援があったことを申し添えます。

どうもありがとうございました。

(本学スリカン・タムマウォン客員准教授 記)

⑥ 本学理事・事務局長ラオス国立大学訪問（2018 年 3 月）

1) 2017 年 2 月 27 日から 3 月 4 日の日程で、東京外国語大学理事・事務局長の匂坂克久理事が本学の世界展開力強化事業(ASEAN)「日本発信力強化に貢献するミャンマー・ラオス・カンボジア知日人材養成プログラム」の協議のために、連携大学であるラオス国立大学を訪問した。本訪問の目的は、本事業を開始して約 2 年がたち、さまざまな課題が出てきたことから双方の意見を交換し、具体的な改善策や解決策を検討し、今後に向けてさらなる相互理解と円滑な協力体制を築くためである。匂坂理事のピエンチャン滞在中、本学教授、鈴木玲子が同行した。



（副学長・大学執行部との協議）

2) 上記期間の主な訪問先は次のとおりである。

①ラオス国立大学執行部（ソムチャン副学長、事務副局長など）

②同大学国際交流課（課長、留学担当者など）

③同大学文学部執行部（副学部長、事務長、ラオス語学文化学科長など）

④同大学文学部日本語学科（日本語学科長、教員、学生など）

⑤在ラオス日本国大使館

⑥国際交流基金アジアセンターピエンチャン連絡事務所



（日本語学科との交流会）

3) 大学執行部との意見交換では、本事業における学生双方の派遣・受け入れについて、概ね順調に成果を挙げていることを確認した。また、本学からは「ASEAN+3」に関する情報提供をし、ラオス側の現状と教育の質保証について活発な意見交換がなされた。さらに本学と関係の深い文学部執行部との会合にお



（Tufs ラオス語短期研修修了式）

いては、学部レベルの単位互換システムや大学院の交流をどのように進めるべきか、という具体的な内容について協議した。また、同時期に同学部日本語学科に短期派遣ショートビジットプログラムで本学からラオス語を学ぶ 1 年生全員が参加していた日本語学科生とのタンデム学習を見学し、同学科の日本ラオス学生交流会に参加した。

4) 在ラオス日本国大使館や国際交流基金アジアセンターピエンチャン連絡事務所を訪問し、本事業の理解と協力を

求めた。併せてラオスにおける日本語教育や日本への関心に関する情報を収集し、今後の事業内容に役立てることにした。

5) 3月1日(木)には第1回グローバルコミュニティ会合(世界各地に広がる卒業生・在学生等との会合)を開催した。本学卒業生、元招へい教員や元留学生、さらには在学中の学生らが一堂に会し、ラオス国立大学で活躍する本学関係者3名に勾坂理事よりTUFS グローバルアソシエイツの認定証が授与された。



(グローバルコミュニティ会合)



(TUFS グローバルアソシエイツ認定証授与)

鈴木玲子 記

⑤TUFS グローバルコミュニティ会合開催（2018 年 3 月）：ビエンチャンで TUFS アソシエイツらと会合

2018 年 3 月 1 日（木）、ラオスのビエンチャンで、第 1 回「TUFS グローバル・コミュニティ会合」（世界各地に広がる卒業生・在学生等との会合）を開催しました。今回は、2016 年度より実施している大学の世界展開力強化事業（ASEAN）の協議を目的に、匂坂理事・事務局長と事業責任者の鈴木玲子教授（大学院総合国際学研究院、ラオス語学）がラオス国立大学や在ラオス日本国大使館等を訪問したことに伴い開催されました。

当日は、東京外語会ビエンチャン支部長の荒絵里世支部長（2000 年、ラオス語専攻卒業）をはじめとした本学卒業生のほか、本学とラオス国立大学での大学間交流協定締結後、本学で教鞭を執った元招聘教員、元留学生が初めて一堂に会し、懐かしい顔ぶれが揃いました。また、大学の世界展開力強化事業による短期 Joint Education Program「ショートビジット」中の本学学生 1 年全員とラオスに長期留学中の学生も加わり、総勢 40 名が参加しました。



会合では、大学の世界展開力強化事業（ASEAN）の説明や「ASEAN + 3」の浸透の重要性と共に、大学や卒業後の近況を報告し合い、国や世代を超えたグローバルな情報交換の場となりました。匂坂理事・事務局長より、もと招聘教員やラオス国立大学の教員として活躍されているもと留学生に TUFS グローバルアソシエイツの認定証が授与され、本会合の意義を確認しました。そして今後の互いの活躍と次回の再会を祈念して幕を閉じました。

⑥ボランティア体験報告：小金井市国際交流フットサル大会（2018 年 3 月）

本学の交換留学生（ラオス人学生 2 名、ミャンマー人学生 3 名）が、小金井市国際交流フットサル大会にボランティアとして参加しました。

ボランティア活動者；

コムア ファイダー（ラオス；2017 年度交換留学生）

スワニア ウォンカムチャン（同上）

テス ライン（ミャンマー；2017 年度交換留学生）

プーピー ハイndeツ（同上）

ウィン ユ ナイン（同上）

参加活動名；「小金井市国際交流フットサル大会」

日時；2018 年 3 月 3 日 9 時～17 時

場所；小金井市総合体育館

主催；小金井市役所コミュニティ文化課

活動テーマ；小学生とフットサルを楽しみながら交流する

参加者；小学生フットサルチーム 8 チーム

市内及び近隣在住の留学生 約 30 人

東京学芸大学在学の大学生、フットサルの関係者、市役所の担当者他

活動内容；自己紹介、各国のあいさつの言葉の紹介

小学生とチームを組んでのフットサル試合

親善ゲーム（紙ヒコーキ大会他）など



留学生 自己紹介



紙飛行機を折るコムアさん(中央)



大活躍のサンディさん（白ユニフォーム）

⑦外務省よりラオス楽器（ケーン）の寄贈（2018 年 5 月）

5 月 1 日（火）、外務省アジア大洋州局南部アジア部南東アジア第一課の岡崎淳氏が来訪され、ラオスの伝統的な楽器であるケーン（ユネスコによる無形文化遺産）を本学ラオス語ユニットへ寄贈されました。同楽器は 4 月に河野太郎外務大臣がラオスを訪問した際に、サルムサイ・ラオス外相より贈呈を受けたもので、教育現場において活用してほしいとの河野大臣のご意向から、本学へ寄贈されるに至りました。

ラオスからの交換留学生であるコームアさんが早速実演し、美しい音色を響かせました。今後外語祭等での披露が期待されます。

本学、匂坂克久理事との懇談では、外交レベルにおいてラオス語人材が希少であること、本学学生・卒業生の現地での活躍・貢献について確認されました。また、鈴木玲子教授からは本学が取り組む、ミャンマー・ラオス・カンボジアにおける知日人材の養成を目的とした大学の世界展開力事業（A S E A N）についての取組が説明されました。

ラオス語の教員、日本人学生、留学生も同席する中で、今後の外務省と本学との協力体制の益々の発展を確認しました。

その後、ラオス語共同研究室に場所を移し、ラオス語を学ぶ学生と懇談の場を設けました。ラオス語を駆使して日本とラオスの外交舞台で活躍される岡崎氏を囲んでさまざまな質疑応答がなされ、学生達にとってラオスと日本の理解を深める一日となりました。



岡崎淳氏（写真右から 3 番目）よりケーンの寄贈を受ける匂坂理事（左から 2 番目）、ラオス語教員一同



ケーンを演奏する交換留学生のコームアさん

⑧ラオスダム決壊義援金贈呈報告（2018 年 8 月）

ラオス ダム決壊義援金贈呈報告

2018 年 8 月 27 日

2018 年 8 月 10 日、東京外国語大学ラオス語関係者の代表が在日ラオス人民民主共和国大使館を訪問し、2018 年 7 月 23 日にラオス南部アッタプー県サナムサイ郡で発生したダム決壊洪水災害の義援金として ¥125,000 を同大使館に贈呈しました。一日もはやい復興をお祈り申し上げますとともに、ここに記して皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

特定外国語主任教員

スリカン タムマウォン

ບົດຂ່າວ:

ໃນວັນທີ 10 ສິງຫາ 2018 ຕາງໜ້າອາຈານ ແລະນັກສຶກສາພາກວິຊາພາສາລາວ ມະຫາວິທະຍາໄລໂຕກຽວການສຶກສາຕ່າງປະເທດໄດ້ຮ່ວມແຮງຮ່ວມໃຈກັນລະດົມທຶນຊ່ວຍເຫຼືອບໍລິຈາກປັດໃຈເປັນຈຳນວນເງິນ 125,000 ເຢນ ມອບໃຫ້ສະຖານທູດລາວປະຈຳຍີ່ປຸ່ນ ເພື່ອໄປຊ່ວຍເຫຼືອຜູ້ປະສົບໄພທີ່ໄດ້ຮັບຜົນກະທົບຈາກໄພນ້ຳຖ້ວມ ທີ່ເມືອງສະໜາມໄຊ ແຂວງອັດຕະປື ໃນວັນທີ 23 /7/2018ທີ່ຜ່ານມາ ຂໍເປັນກຳລັງໃຈໃຫ້ຜູ້ທີ່ໄດ້ຮັບຜົນກະທົບຈົ່ງຜ່ານພື້ນໄປດ້ວຍດີດ້ວຍເທີນ.

ອາຈານເຊີນສອນພາສາຕ່າງປະເທດ

ສຸລິກັນ ທຳມະວົງ



(ラオス大使館からの礼状)



(ウィロート大使（右）へ義援金を贈呈)

⑨ボランティア体験報告：小金井市立東小学校 ミニ運動会（2018年11月20日）

本学の交換留学生（ミャンマー人学生3名、ラオス人学生3人名、カンボジア学生2名）が

小金井市立東小学校 ミニ運動会にボランティアとして参加しました。

ボランティア活動者：

アウンミヤツ（ミャンマー；2018年度交換留学生）

ニンエツウィー（同上）

スーウィンモン（同上）

ナパーポーン・ポンアーサー（ラオス；2018年度交換留学生）

スイウドムパン・ティツパワン（同上）

カムラ・ベッタターン（同上）

ハン・ソロン（カンボジア；2018年度交換留学生）

ルース・チャントラ（同上）

参加活動名：「小金井市立東小学校 ミニ運動会」

日時：2018年11月20日 午後1時30分～15時15分

場所：小金井市立東小学校体育館

主催：小金井市立東小学校

活動テーマ：小学生とミニゲームを楽しみながら交流する

参加者：小金井市立東小学校在籍の3年生 100人

活動内容：自己紹介、各国のあいさつの言葉の紹介、小学生の踊りの鑑賞、ラジオ体操

小学生とチームを組んで、玉入れ・ボール送り・輪くぐり・質問コーナー

⑩ボランティア体験報告：もちつき大会（2018年12月8日）

交換留学生として本学に留学中の留学生と、本学の外国人教員がもちつき大会のボランティアを体験しました。

ボランティア活動者：

サイチョートウン（ビルマ語特定外国語主任教員）

スリカン・タムマウォン（ラオス語特定外国語主任教員）

カムラー・ペンタターン（ラオス；2018年度交換留学生）

スイウドム・ティップワン（同上）

ナパーポーン・ポンアーサー（同上）

ルース・チャントラ（カンボジア；2018年度交換留学生）

千葉 綾乃（言語文化学部ラオス語4年）

参加活動名：「もちつき大会」

日時：2018年12月8日

場所：小金井市立東児童館

主催：小金井市青少年健全育成東部地区委員会

活動テーマ：地域の人たちと触れ合い交流する。餅つきを通して日本の文化を知る

参加者：計 約380人

近隣の小中学生、幼児とその親、スタッフ、市内及び近隣在住の留学生

活動内容：餅つき、餅の加工、餅のパック詰め、餅の配布



子供達にお餅を配る留学生



初めての体験。お餅を丸める



呼吸をあわせて「よいしょ」



先生方も初のもちつき。一生懸命

⑪ボランティア体験報告：小金井市立東小学校 交流授業（2019 年 1 月 18 日）

本学の交換留学生（ラオス人学生 1 人名、カンボジア人学生 2 名）が、小金井市立東小学校の交流授業にボランティアとして参加しました。

ボランティア活動者；

カムラー・ペンタターン（ラオス；2018 年度交換留学生）

ハン ソロン（カンボジア；2018 年度交換留学生）

ルース チャントラ（同上）

参加活動名；「小金井市立東小学校 交流授業」

日 時 ；2019 年 1 月 18 日 10 時 30 分～12 時 15 分

場 所 ；小金井市立東小学校体育館、5 年生各教室

主 催 ；小金井市立東小学校

活動テーマ；小学生と楽しみながら交流する。各国の紹介をして小学生に興味を持ってもらう。

参 加 者；小金井市立東小学校在籍の 5 年生 109 人、

留学生(東京外国語大学、ICU)17 人

活動内容 ；

第 1 部 留学生より自己紹介、各国のあいさつの言葉の紹介、各国のシンボル の紹介

小学生の島唄の演奏、好きなスポーツ・色・果物から留学生を当てる、爆弾ゲーム

第 2 部 各教室に分かれ 5、6 人のグループになって留学生にインタビュー



子どもたちの質問に答えるカムラーさん



爆弾ゲームを楽しむチャントラさん



最後の挨拶をするソロンさん

⑫ボランティア体験報告：小金井市青少年健全育成東部地区委員会 意見交換と親睦の会（2019 年 1 月 19 日）

交換留学生として本学に留学中の留学生が、小金井市青少年健全育成東部地区委員の皆さんと交流会をしました。

ボランティア活動者；

ニンエツウィー（ミャンマー；2018 年度交換留学生）

カムラー・ペンタターン（ラオス；2018 年度交換留学生）

参加活動名；

「小金井市青少年健全育成東部地区委員会 意見交換と親睦の会(留学生を迎えて)」

日 時 ； 2019 年 1 月 19 日 18 時 30 分～20 時 30 分

場 所 ； 小金井市立マロンホール

主 催 ； 小金井市青少年健全育成東部地区委員会

活動テーマ；留学生から各国を紹介してもらい、留学生には日本の文化を知ってもらう

参 加 者；計 36 人

小金井市青少年健全育成東部地区委員 22 人

小金井市立東小学校、同東中学校の校長、副校長計 4 人

小金井市立東児童館職員 4 人

近隣在住の留学生 6 人

活動内容；

第一部 留学生の自己紹介、各国の紹介

第二部 6 つの班に分かれて会食と交流

⑬ボランティア体験報告：中高生タイム 留学生とたこ焼きパーティー（2019 年 1 月 30 日）

交換留学生として本学に留学中の留学生が、小金井市立東児童館でのたこ焼き交流会に参加しました。

ボランティア活動者；

ニンエツウィー（ミャンマー；2018 年度交換留学生）

ナパーポーン・ポンアーサー（ラオス；2018 年度交換留学生）

参加活動名；「中高生タイム 留学生とたこ焼きパーティー」

日 時 ； 2019 年 1 月 30 日 18 時～20 時

場 所 ； 小金井市立東児童館

主 催 ； 小金井市立東児童館

活動テーマ；東児童館に通う中学・高校生と留学生とたこ焼きを作って交流する

参 加 者；小金井市立東児童館に通う中学・高校生 12 人

小金井市立東児童館職員 4 人、ち Q 人（協力団体）スタッフ 4 人

近隣在住の留学生 8 人

当日は、風の強い寒い日でしたが、中学・高校生と留学生が、あつあつのたこ焼きを囲んで、ともに楽しみました。初めてたこ焼きを作る中学生、初めてたこ焼きを食べるという留学生もいて、にぎやかなひと時になりました。



⑭小学校出張授業報告書（2019 年 2 月 16 日）：東金町小学校の訪問

ルアンスワンナウォン・アーモンラット

東京外国語大学大学院総合国際学研究所・博士前期課程

2019 年 2 月 16 日（土）、国際機関日本アセアンセンターの依頼で、ASEAN 出張授業の講師として東金町小学校を訪問しました。この取り組みは、日本と ASEAN 諸国間の人物交流の促進のために実施されている事業の一つで、日本の小学生に ASEAN 諸国を紹介し、この地域の魅力を知ってもらうことを目的としています。今回の児童の人数は 67 人で、1、2 年生でした。



（プレゼンテーションの様子）

大学院生になって以来、毎日授業や研究のことに夢中で、日々の生活に精一杯でした。以前はこのような文化活動もしていましたが、最近はほとんどしていませんでした。そのため、今回の出張授業は久しぶりに日本の子どもたちと触れ合う機会となりました。2 月 16 日は土曜日にもかかわらず、私は朝早起きをして、楽しみに準備をしました。今回は初めて小学 1 年生にラオスの文化を発表して交流するので、とてもわくわくしました。国際機関日本



（子どもたちと一緒に遊んでいる様子）

アセアンセンターのスタッフ、カンボジア人の友達と私も含めて 3 人とも、午前 9 時頃に学校に到着しました。まず、校長先生と担当の先生に会って、挨拶をしました。その後、待機室でしばらく待っていました。待っている間に、今日はうまく話せるかどうか、少し不安になってきました。

ようやく時間になって、担当の先生が教室に連れて行ってくれました。子どもたちは、楽しみに座って待っていて、皆、笑顔で挨拶してくれました。教室の中に担任の先生がいらしゃって、子どもたちがきちんとルールを守るように見守ってくださいました。まず初めに私は自己紹介として、名前、出身国、趣味と自分の好きなものについて話しました。このとき感動したのは、私が言ったことに子どもたちが活発に反応して興味を持ったことです。それが終わった後、私は用意してきたプレゼンテーションをしました。一枚ずつスライドを紹介している間に子どもたちが興味を持ってくれたようで、いくつも質問をしてくれた

り、コメントをくれたりしました。私は思いがけずたくさんの質問を一度にされたので、話す内容を忘れてしまうくらいでした。担任の先生は、発表がうまく進むようにできるだけ私を手伝ってくださいました。このとき、私は全く不安を感じず、逆にむしろ嬉しくてとても感激しました。プレゼンテーションが終わった後、私はラオスの遊びである「マークティー」を紹介し、子どもたちと一緒に遊びました。とてもぎやかに楽しく遊ぶことができました。しかし、あっという間に時間が過ぎ去って、残念ながら今回の出張授業が終わってしまいました。

今回の出張授業から得たものは主に 2 つあります。まず一つ目は、東金町小学校の先生方と子どもたちの暖かさや笑顔を感じたことです。これによって、私は久しぶりに心が豊かになり、子どもたちと遊ぶことで自分の勉強に疲れた心は癒やされました。そして二つ目は、子どもたちの勇気を感じたことです。特に、質問やコメントをする勇気です。こうした子どもたちの様子を見ることによって、自分もこのように勇気を出して、わからないことについて先生に聞けるようになりたいと思いました。今回の出張授業を通じて、東金町小学校の子どもたちにラオス或いはアセアンを身近に感じてもらえれば嬉しいと思います。貴重な機会を提供していただき、国際機関日本アセアンセンターの方々に重ねて厚くお礼を申し上げます。

* 国際機関日本アセアンセンターについては、以下のウェブサイトをご参照ください。

<https://www.asean.or.jp/ja/>

⑮ボランティア体験報告（2019年3月7日）

本学の交換留学生（ラオス人学生3名、カンボジア人学生3名）が、小金井市立東小学校で行なわれた放課後子ども教室ちＱ人の活動にボランティアとして参加しました。

ボランティア活動者；

カムラー・ペンタターン（ラオス；2018年度交換留学生）

ナパーポーン・ポンアーサー（同上）

スイウドムパン・ティツパワン（同上）

ハン・ソロン（カンボジア；2018年度交換留学生）

ルース・チャントラー（同上）

ポー・クンティップ（同上）

参加活動名；「小金井市東小学校区 放課後子ども教室 ちＱ人 “色ともよう”」

日時；2019年3月7日 14時45分～16時15分

場所；小金井市立東小学校、特活室

主催；ちＱ人

活動テーマ；小学生と留学生が楽しみながら交流する。色ともようをテーマとして、各国語を紹介しながら各国について小学生に興味を持ってもらう。

参加者；小金井市立東小学校在籍の主に2年生と3年生30人、留学生（東京外国語大学、ICU）10人

活動内容；ダグダググース、留学生の自己紹介、色連想ゲーム、色おに、グループに分かれてUNO、サインカード

小学生が集まるまで、ダグダググースをして遊びました。留学生の自己紹介のあと、留学生に各国語で色の名前を言ってもらい、その色を当てる「色連想ゲーム」を行いました。引き続き、留学生に各国語で色の名前を言ってもらい、教室内に貼り付けた国旗などの色のなかから、留学生が言った色を探してその色のところに集まる「色おに」をしました。そのあ

と、オリンピック競技のピクトグラムを用いてグループ分けを行い、各グループで UNO をして遊びました。小学生たちは、カードの数字と色を留学生から聞き出し、その国の言葉で UNO をして留学生と一緒に遊びました。最後にサインカードを交換し、それぞれのカードにサインを書き合いました。小学生たちは、各国語による色の名前や数字を覚えるのが早く、楽しく遊ぶことができました。



自己紹介をする留学生たち
(右から6名がラオスとカンボジアの学生)



色おにを楽しむティップワンさん（左）とポンアーサーさん（右）



グループに分かれたソロンさん（左）とチャントラーさん（右）



⑩第 2 回ラオス語ディベート大会実施報告

東京外国語大学 ラオス語専攻は、2019 年 1 月 22 日 第二回ディベート大会を開催しました。

この大会は、ラオス語専攻の学生の学力とラオスに関する知識の向上を目的としています。今大会の参加者は、教職員 4 名、1 年生 8 名、2 年生 5 名、3 年生 6 名、4 年生 5 名、大学院生 1 名、ロシア語専攻の 2 年生 1 名、ラオス人留学生 7 名、総勢 37 名でした。



ディベート大会の様子

このディベート大会は、ラオス語専攻代表教員で今大会の実行委員長である菊池陽子准教授の開会の挨拶で始まりました。その後、ラオス国立大学より出向中のスリカン・タムマウォン客員准教授と司会者により、プログラムの説明がありました。

今大会は、1 年生から 4 年生の 4 班に分かれ、2 部構成で行われます。

第一部「討論の部」は 4 年生と 3 年生、それぞれ 3 人のメンバーが「田舎と都会とどちらに住むほうがいいのか」というテーマで討論をしました。各自 5 分以内で意見を発表します。まずは、各班の代表が発表し、その後双方交代で順番に、根拠や重要な点などをまじえて各自の意見を発表しました。双方とも工夫を凝らして主張を繰り広げ、会場は大いに盛り上がりました。

第二部「質疑応答の部」は、2 年生と 1 年生が 4 分以内で 3 つの質問に答えるというものです。「日本について」、「ラオスについて」、「授業の内容について」の 3 つのトピックの中から 1 問ずつくじを引いて行います。各班の代表に続いて順番に質問に回答します。1 年生も 2 年生もそれぞれが正しい答えを一生懸命考え、より高い得点を目指して頑張りました。そのほか、この大会では、ラオス人留学生による楽しいバサロップ（ラオスダンス）や、2 年生のウクレレ演奏があり、来場者みんなで楽しみ、交流を深めました。

今回のディベート大会の結果は、第一部「討論の部」は 1 位が 3 年生、2 位が 4 年生、第二部「質疑応答の部」は 1 位が 2 年生、2 位が 1 年生でした。それぞれに賞状と賞品が渡されました。そして、鈴木玲子教授より、閉会の挨拶と

今大会の批評、及び関係者や参加者の皆様への感謝の言葉があり、盛会のうちに第2回ディベート大会は幕を閉じました。



第2回ディベート大会 参加者全員で

スリカン・タムマウォン記

⑰ボランティア体験報告：第 47 回子ども週間行事東部地区子ども縁日（2019 年 4 月 20 日）

本学の留学生が、小金井市青少年健全育成東部地区の主催の「子ども縁日」に参加しました。

ボランティア活動者；

ニンエツウィー（ミャンマー；2018 年度交換留学生）

スーウィンモン（同上）

カムラー・ペンタターン（ラオス；2018 年度交換留学生）

ナパーポーン・ボンアーサー（同上）

スイウドムパン・ティッパワン（同上）

ルース・チャントラー（カンボジア；2018 年度交換留学生）

ハン・ソロン（同上）

参加活動名；「第 47 回子ども週間行事東部地区 子ども縁日」

日時；2019 年 4 月 20 日 10 時～12 時 30 分

場所；小金井市立東小学校

主催；小金井市青少年健全育成東部地区実行委員会

活動テーマ；地域の子ども会、健全育成委員の協力により、地域の子もたちと地域の中学生、留学生、大人との触れ合いを楽しむ

参加者；小金井市青少年健全育成東部地区委員、小金井市長、小金井市教育長、小金井市立東小学校、

同東中学校の校長、副校長、小金井市立東児童館職員、東部地区の子ども会、近隣在住の留学生

活動内容； 飲食やゲームの出店

留学生たちは、じゃんけんゲーム 5 名と焼きそばの手伝い 2 名の 2 班に分かれて活動しました。各班の活動の詳細は以下の通りです。

（１） 留学生の出店；じゃんけんゲーム

留学生 6 人が 3 人ずつ 2 組（ミャンマー・ラオス・カンボジアとミャンマー・カンボジア・アメリカ（ICU の留学生））になる。

第 1 組は、それぞれの母国語でグー・チョキ・パーを書いた紙の前に座る。子どもに母国語の発音で「グー・チョキ・パー」を教えたあと、母国語でじゃんけんをする。第 2 組は他の出店（スーパーボール・缶倒し・わたあめ・ポップコーンなど）を楽しみ、子どもたちと交流する。時間が来たら 1 組と 2 組が交代する。

（２）「焼きそば」のお手伝い（盛り付け）

健全育成委員の焼いた焼きそばを、プラスチックパックに盛り付けて、箸をのせ輪ゴムで止める。空いた時間には他のお店を回り、子どもたちとゲーム等で楽しむ。

活動の様子

①じゃんけんゲーム

負けても勝っても楽しい「じゃんけんゲーム」。子どもたちは、初めて目にする外国語、初めて聞いた外国語に戸惑いながらも、楽しんでいました。留学生の皆さん、母国に帰ってもこの体験を思い出して、「じゃんけん」してくださいね。



笑顔でじゃんけんをするソロンさん、ニンさん、チャントラーさん、カムラーさん、スーさん

②焼きそばのお手伝い

ナパーポーンさんとティツパワンさんは焼きそば係りを担当。出来上がった焼きそばを手際よく盛り付けていました。

ナパーポーンさんは、母国には無い「ソース焼きそば」の味が気に入り、母国に持って行きたいとさっそく粉末ソースを購入。



参加者（カムラーさん）の感想；

この活動のおかげで、私は子どもたちと色々なゲームで遊べて、そして、色々な食べ物が食べられました。特に子どもたちとゲームで遊んだ時は、子供たちの笑顔を見て、子どもたちに笑わせられて、本当に嬉しかったです。また子供たちと遊ぶ以外に、他の国の友達のゲームも遊びました。本当に良かったです。今度もしこのような活動があったら私はまた参加したいです。

⑱ボランティア体験報告：放課後こども教室（2019 年 5 月 16 日）

本学の留学生が、小金井市立東小学校でおこなわれた、ち Q 人主催の「放課後こども教室」に参加しました。

ボランティア活動者；

ニンエツウィー（ミャンマー；2018 年度交換留学生）

スーウィンモン（同上）

アウンミャツ（同上）

ナパーポーン・ポンアーサー（ラオス；2018 年度交換留学生）

ルース・チャントラー（カンボジア；2018 年度交換留学生）

ハン・ソロン（同上）

参加活動名；「放課後子ども教室 がいこくの人とあそぼう！」

日時；2019 年 5 月 16 日 14 時 45 分～16 時 15 分

場所；小金井市立東小学校

主催；ち Q 人

活動テーマ；小学生とゲームを通じて国際理解と国際親善を推進する

参加者；小金井市立東小学校在籍の 1 年生～3 年生、近隣在住の留学生

活動内容；留学生にインタビュー、体を使ったゲーム、ダック・ダック・グースゲームなど



自己紹介をする留学生「ミャンマーの挨拶は？ミンガラバー」と紹介したニンさん。子どもたちから「ミギガワ」と言われて大爆笑



子どもと手をつないで立ち上がるゲームで「よいしょ」ああ失敗！



カンボジアを説明するチャントラーさん

好きな日本料理やアニメを聞かれ、「えーっと・・・」「ううん・・・」一生懸命に答える留学生の皆さん。お寿司、たこ焼き、ラーメンとの回答に、真剣にメモをする小学生たち。やっぱりジブリとドラえもんは大人気でした。



⑱高尾山ハイキング（2019 年 6 月 15 日）

世界展開力強化事業で留学中のミャンマー・ラオス・カンボジアの学生が、6 月 15 日（土）に「高尾山ハイキング」に行ってきました。

留学中に一緒に食事をしたり遊んだりしているうちに、仲良くなった 3 国の学生が、「帰国前にどこか行ったことがない所に、みんなで行こう」と考え、カンボジアのチャントラーさんの提案で「高尾山ハイキング」を企画しました。

当日は大雨で、寒い一日でしたが、とても楽しかったようです。



山頂での集合写真

（企画したチャントラーさんの感想）

「私たちは、高尾山に行ってとても楽しかったです。山の上でみんなと、そばやうどんを食べたり、おでんを食べたりしました。写真もいっぱい撮りました。雨だったので大変でしたが、山に登った時は面白かったです。」



高尾山駅前の集合写真

（ラオスの学生；ティツパワンさんの感想）

「6 月 15 日にミャンマー・ラオス・カンボジアの 3 国の学生といっしょに、高尾山に行きました。その日は一日中大雨が降っていましたが、みんなは約束通り一緒に楽しみました。最初にケーブルカーに乗ってから、高尾山の山頂まで歩きました。歩きながらたくさん写真を撮りました。山に登ると大きなお寺があって、とても綺麗でした。もし天気良かったら山頂から富士山が見えるそうですが、残念ながら大雨で、見られませんでした。その後、皆は疲れたので、お店で昼食を食べて休憩しました。とても寒かったので、私は温かいうどんを食べ、良い気持ちになりました。今回の旅行で、みんなは感動して、ますます仲良くなりました。もし良ければ、もう一度高尾山に行きたいと思います。」

留学生たちは大学での授業や寮での生活、そして様々なイベントと一緒に参加する中で、とても仲良くなりました。その仲の良さは、皆さんお揃いの TUFS オリジナル T シャツやパーカーを着て、このハイキングに臨んでいる様子からも窺えます。雨がたくさん降る中、きちんと約束を守って実行したことで、さらに絆が深まったようです。

②ボランティア体験報告：小金井市立東小学校 交流授業（2019 年 7 月）

本学の交換留学生（ラオス人学生 2 名、ミャンマー人学生 2 名）が、小金井市立東小学校の交流授業にボランティアとして参加しました。

ボランティア活動者；

7 月 10 日 ニンエツウィー（ミャンマー；2018 年度交換留学生）

スーウィンモン（同上）

ナパーポーン・ポンアーサー（ラオス；2018 年度交換留学生）

7 月 11 日 カムラー・ペンタターン（同上）

参加活動名；「小金井市立東小学校 交流授業」

日時；2019 年 7 月 10 日、11 日 10 時 40 分～12 時 15 分

場所；小金井市立東小学校体育館、各教室

主催；小金井市立東小学校

活動テーマ；小学生と楽しみながら交流する。各国の紹介をし、小学生に興味を持ってもらう。

参加者；小金井市立東小学校在籍児童（10 日は 4 年生、11 日は 6 年生）、留学生は合計 32 人

活動内容；第 1 部 留学生に英語で質問、留学生との自己紹介、
各国の紹介、留学生への質問など

第 2 部 10 日：輪ぐり、爆弾ゲーム、じゃんけん列車

11 日；習字、けん玉、カルタ、こま、お手玉など



挨拶をするニンさん



挨拶をするスーさん



自国の紹介をするナパーポーンさん



自国の紹介をするカムラーさん

②ラオス国立大学学長の東京外国語大学訪問（2019 年 7 月 19 日～23 日）

世界展開力強化事業「日本発信力強化に貢献するミャンマー・ラオス・カンボジア知日人材養成プログラム」による三国からの第 4 回目を迎えた短期学生受入プログラムにあわせて、ラオス国立大学のソムスィー・ニョーパンサイ学長が 2019 年 7 月 19 日から 23 日まで東京外国語大学を訪問しました。今回の訪問の目的は、大きく分けて 2 つあり、一つは世界展開力強化事業「日本発信力強化に貢献するミャンマー・ラオス・カンボジア知日人材養成プログラム」のタンデム学習で講演を行うと共に本事業のさまざまな催しに参加すること、もう一つは本学とラオス国立大学との大学間交流協定と学生交流に関する覚書の更新署名式を執り行うというものでした。



7 月 19 日午後、本学学長である林佳世子学長ご臨席のもと、ヤンゴン大学、ラオス国立大学、王立プノンペン大学の三国からの引率員と学生、そして本学関係教員と学生も参加して短期受入プログラムの開講式を執り行い、ソムスィー学長が三大学を代表してご挨拶と招聘のお礼を述べました。

開講式後、学長と同行教員は、ラオス国立大学からの交換留学生、大学院博士前期課程学生、研究生として東京外国語大学に在籍しているラオス留学生と会い、留学生活が有意義で、学業の成果があるように、

と学生達を励まされました。

その後、ソムスィー学長は林佳世子本学学長と共に大学間交流協定、学生に関する覚書の更新署名式に臨みました。

両大学のこれまでの成果を確認するとともに今後の益々の交流の深遠化を約束しました。



7月21日および22日にはソムスィー学長と同行教員は、学生と共に富士山世界遺産センター、茶道体験、本学図書館見学など、短期受入プログラムのさまざまな催しに参加しました。なかでも22日には「ラオスの教育制度について」と題して、本学の日本人学生とラオスからの学生を前に講演を行ってくださいました。両国の学生達は、お互いを知り、その後のタンデム学習で活発な意見交換をすることができました。



また学長と本学ラオス語教員との間で、学部の交換留学生だけではなく、大学院生や教員間の学習や研究レベルでのさまざまな形での交流を拡大実施していくことで合意し、ASEAN+3に関する両大学の対応についても協議することができました。

ソムスィー学長の本学訪問は短期間でしたが、両大学の学生や教員にとってさまざまなことを学ぶことができた有益なご滞在でした。このご訪問を経て、両大学の友好と協力関係が益々強く盛んになることを祈ってやみません。

今回のラオス国立大学ソムスィー・ニョーパンサイ学長の東京外国語大学ご訪問に記して
心よりお礼を申し上げます。

どうもありがとうございました。

②ボランティア体験報告：東児童館 ハロウィンパーティー（2019 年 10 月）

本学の交換留学生（ミャンマー人学生 4 名、ラオス人学生 3 名、カンボジア人学生 1 名）が、小金井市東児童館で行なわれたハロウィンパーティーにボランティアとして参加しました。

ボランティア活動者；

チョウティーリアウン（ミャンマー；2019 年度交換留学生）

メイテツパインチョー（同上）

テススティン（同上）

ミヤツネイチタウン（同上）

ナントラート・ハマッサジャン（ラオス；2019 年度交換留学生）

ボンセーンケオ・マノリー（同上）

サイソムペン・ニラミット（同上）

トリー・スレイレアク（カンボジア；2019 年度交換留学生）

参加活動名；「東児童館 ハロウィンパーティー」

日時；2019 年 10 月 26 日（土） 13 時～16 時

場所；小金井市東児童館

主催；小金井市東児童館

協力；ちＱ人

参加者；地域の子どもたち、留学生（東京外国語大学、ICU、亜細亜大学）14 人

活動内容；班分け、じゃんけん列車、仮装行列（トリックオアトリート）、反省会

東児童館に到着し、仮装の準備と地域を周る際の班分けを行いました。14 時からハロウィンパーティーが始まり、留学生たちは子どもたちの前で自己紹介をしました。次に親睦を深めるために、じゃんけん列車を参加者全員で行いました。じゃんけんに負けた人が勝った人の後ろにつながっていくゲームで、じゃんけんのやり方に戸惑っていた留学生たちは苦戦してい

ました。最後は全員で一列となり、一体感が生み出されるとともに、互いを知るよいきっかけとなりました。



自己紹介する留学生たち
(左から、ミヤツネイチタウンさん、マハッサジャンさん、
テスステインさん、チョウティーリアウンさん、マノリーさん、ニラミットさん、
トリーさん、メイテツパインチョーさん)



じゃんけん列車のようす

その後、4つの班に分かれて、地域各所に設置された4つのチェックポイントを周りました。子どもたちは、各チェックポイントで出される、ジェスチャーゲーム、クイズ、うた（森のくまさん）、間違い探しなどの課題を留学生たちと協力してクリアし、お菓子をもらいました。



チェックポイントを巡るようす



チェックポイントで間違い探しをしているようす

イベント終了後には、スタッフと各班のリーダーが集まって反省会が行われました。留学生たちもこの反省会に参加し、一人ずつ感想などを話しました。留学生たちはハロウィンイベントに初めて参加した学生が多く、日本におけるハロウィンの一面を知るとともに、地域の子どもたちとも仲良くなることができました。



反省会のようす

世界展開力強化事業（ASEAN）コーディネーター

寺井淳一記

②第 3 回ラオス語スピーチ大会実施報告

東京外国語大学ラオス語専攻は、2020 年 1 月 30 日 16:00～18:00 に第 3 回スピーチ大会を開催しました。(今回「ディベート大会」から「スピーチ大会」と大会の名称を改めました。)この大会は、ラオス語専攻学生の学力とラオスに関する知識の向上を目的としています。ラオス語専攻の多くの教員や学生が参加し、教員 5 名、ラオス人留学生 8 名を含む 37 名が参加しました。



スピーチ大会の様子

最初にラオス語専攻代表教員であり本大会の実行委員長でもある菊池陽子准教授が開会の挨拶を行いました。この大会は 3 年生のチーム A、2 年生のチーム B、1 年生のチーム C の 3 チームに分かれて行われました。各チーム 3 人で、順番に 1 人ずつ 3 つの質問に答えていきます。高い点数をとるため皆、



皆でラオスステップ舞踊

一生懸命に正しい答えを考えて答えました。テーマは「日本について」、「ラオスについて」、そして「各学年の授業内容について」の 3 種類です。

今回のスピーチ大会の結果は、優勝が 2 年生のチーム B、準優勝が 1 年生のチーム C、そして奨励賞が 3 年生のチーム A となりました。さらには皆で雰囲気を盛り上げようと、日本人学生やラオス人留学生による楽器演奏や歌の披露がありました。皆でラムウォンを踊るなどして楽しいひとときを過ごし、会場は大いに盛り上がりました。

最後にラオス語専攻副代表でもある鈴木玲子教授による第 3 回スピーチ大会の閉会の挨拶と参加した教員や学生全員への感謝の言葉があり今大会は幕を閉じました。



第 3 回スピーチ大会の参加者全員で

②4 JENESYS2019 ラオス派遣プログラム活動報告

言語文化学部 ラオス語専攻 3 年

下間彩加

コロナウィルス感染拡大の影響で渡航が危ぶまれる中ではありましたが、2020 年 2 月 18 日～26 日の 9 日間に渡り、

東京外国語大学ラオス語専攻の友人 4 名とともに外務省の対日理解促進事業「Japan-East Asia Network of Exchange for Students and Youths (通称：JENESYS)」のラオス派遣プログラムに参加しました。日ラオス外交関係樹立から 65 年、初の海外青年協力隊派遣から 55 年、さらには

両国関係が「包括的パートナーシップ」から「戦力的パートナーシップ」へと

発展して 5 年を迎える節目の年に次世代を担う日本の若者を代表し、同プログラムに東京外国語大学グループのリーダーとして参加できたことを大変嬉しく思います。1 年次冬学期のショートビジットや個人的な旅行とは全く異なる角度から自身の専攻地域である「ラオス」という国を見つめ直す貴重な機会となりました。



【表敬】在ラオス日本国大使館

滞在期間中、私たちはラオス国内で活躍する日系企業及び団体、また現地の文化関連施設等を訪問し、お話を拝聴しました。両国の外交関係や日本が進める開発援助の概要を学び、現地の伝統文化や歴史、経済状況等、幅広い分野に触れる中でラオスの良さと同国が抱える課題の双方を認識するとともに、ラオスにおける日本の立ち位置を確認し、将来自分がこの国とどう関わっていきたいのかを真剣に考える機会となりました。現地到着後の翌日から毎日 2、3 カ所の施設を訪問するというハードなスケジュールでしたが、特に印象的であったものを以下に 4 点紹介したいと思います。

独立行政法人国際協力機構(JICA)の無償資金援助で拡張プロジェクトが進むチナイモー浄水場の視察を行い、専門家の方にお話を伺いました。ラオスでは平均して国民の 76%が安全な飲み水にアクセスできているとされていますが、実際には、その全てに綺麗な水を供給できていないのが現状で、状況は都市部と農村部で大きく異なることを学びました。



【視察】チナイモー浄水場

また、ラオスの水は比較的水質が良く、その年の雨量によってはメコン川の水の透明度が極めて高いといえます。しかし、水道管などインフラの整備が十分に追いついていないことや独立採算制が成り立っていない、つまり水道代がきちんと支払われていないが故に浄水の技術向上に充てる資金が十分ではないという問題を抱えていることを知りました。

日本貿易振興機構(JETRO)ビエンチャン事務所では、ラオスの経済概況を中心としてお話を聴講しました。「東南アジア最後の秘境」、「微笑みの国」などと謳われ、人々の温かさや自然の豊かさで知られるラオスですが、国の財政は極めて厳しい状況にあり、「東南アジアのバッテリー」となるべく、タイやその周辺国に電力輸出を盛んに行っているにも拘わらず、自国全体に電力供給が十分に成されているわけではないことを学習しました。



【聴講】JETRO ビエンチャン事務所

JICA の技術協力等で浄水の技術が非常に向上してきているにも拘わらず、安全な水が広範囲に供給できていない現状がある原因は、財政難により、送電線や水道管といったインフラの量的・質的向上が追いついていないためだそうです。

また、担当者の方に本来独立採算制で回るはずの事業が成り立たない原因を伺ったところ、実際に農村部では水道や電気を必要としない生活がなされ、都市部ほど消費されていないことが指摘されるとの回答をいただきました。国民のニーズが一律ではないことは、50 の民族を抱える多民族国家故に抱える難しさなのではないでしょうか。



【視察】Lao Midori Safety Shoes Co., LTD.

ラオス国立大学工学部との交流では、現地学生は大学での学びを中心に、また日本人学生は日本の魅力をテーマにプレゼンテーションを行いました。東京外国語大学のグループは、東京都の魅力発信も兼ねて、「東京都の伝統工芸品保存制度」というテーマでの発表を行いました。対応するラオス語の訳がない語彙も多く、ラオス語での説明が非常に難しい内容ではありましたが、興味を示してくれた現地学生もあり、時間をかけて準備した甲斐がありました。



【大学交流】ラオス国立大学工学部

また、今回私は初めてラオスでのホームステイを体験しました。1 年次のショートビジットのときに高熱で入院した経験から、食事や衛生面で少し不安があったことは事実ですが、現地の人と食住を共にする非常に貴重な体験をすることができました。受け入れてくれたメヌーちゃんご一家には感謝の気持ちでいっ



ラオスの家庭料理－筍スープ



豚肉のラープ

ぱいです。ホームステイをした日はちょうど村の伝統的な祭日で、ホストファミリーの家には親戚一同が集まり、大音量の音楽をかけて宴会が行われていました。この写真はそのときに撮られていたラオスの伝統的な料理です。想像していたほど辛くなく、やさしい味でした。

家にシャワーがなく、ホースで大きなバケツに水を溜め、それを使用して身体を洗う入浴方法には戸惑いを感じましたが、入浴する、シャワーを浴びるなどと日本語で訳される「ອົບບົວ(水を浴びる)」はなるほどこういうことか!!!と理解した瞬間でもありました。水の冷たさは慣れてしまえばどうということはなく、それよりも今までイメージを伴わず表面的にしか理解し得なかった言葉の本質を知ることができた嬉しさで心が満たされました。

最後に、このような貴重な機会を与え、また支えてくださった全ての皆様に深く感謝申し上げます。ありがとうございました。